

た海外農業研修を村に提案しました。

それまで村では、条例で「一億円の金利は人材育成に使う」と決められてはいたものの、農業者だけの海外研修になると批判も多く、断念するとの声も聞かれました。しかし、辛抱強い各方面への働きかけが実り、やっと実現にこぎつけることができました。

毎年白水村に住む若手農業者十人が、平成三年にアメリカ、カナダ、九二年がドイツとフランス、九三年にオーストラリア、ニュージーランドで研修。これまでに三十人の研修生が誕生しました。そのうち両併地区は十一人が参加、会合では活発な意見の交換がされています。これに刺激されたのか、「婦人の翼」の企画が進められ、その進展が期待されます。

## すてきな農村

### すてきな農業

先日、ある新聞の農業特集の欄に、ドイツの中山間地の様子が記載されていました。生活が成り立たないので補助金を出し、そこに住んでもらっているというのです。記事の最後の締めくくりに、ドイツの記者の言葉が引用されていました。それは「これからの農業者は、理想主義者かマゾヒストである」。

私はすぐ、私の子供に目が移りました。

「この子には、そんな思いをさせたくない」、  
今でもはつきり覚えています。

新農政でやっと中山間地対策が見直されだしてはきました。農村を農業のみでとらえる

ことなく、「農・商・観・福・学・文化交流」など、農村秩序を保ちながら、新しい農村社会を築かなければなりません。そして、このことよって今後のムラ、いえ、小さな社会だけの問題でなく、日本農業の将来の姿が見えてくるのではないのでしょうか。

さらに「村おこし」とは、そこに住む人々が自信と誇りを持ち、明るく暮らすことなのです。「オアシス運動」は、すてきな農村・すてきな農業を築くことが目的であります。今後もこの目標に向かい、多くの仲間と共に、多くの情報を身に着けつつ、足元をしっかりと見据えた村おこし活動、「オアシス運動」を実践していく所存です。

